

学生の学習成果・達成度の評価を巡る問題点

— 専門教育を中心に —

功刀 滋

Shigeru Kunugi, Dr.

京都工芸繊維大学 教授
大学院工芸科学研究科生体分子工学専攻

Professor, Kyoto Institute of Technology,
Graduate School of Technology and Science,
Department of Biomolecular Engineering

1. 達成度評価法の公平性
2. プログラム成果の検証
3. 達成度評価の結果と社会
4. これまでの達成度評価で見える部分と見えない部分

1. 達成度評価法の公平性

科目による評価分布の違い

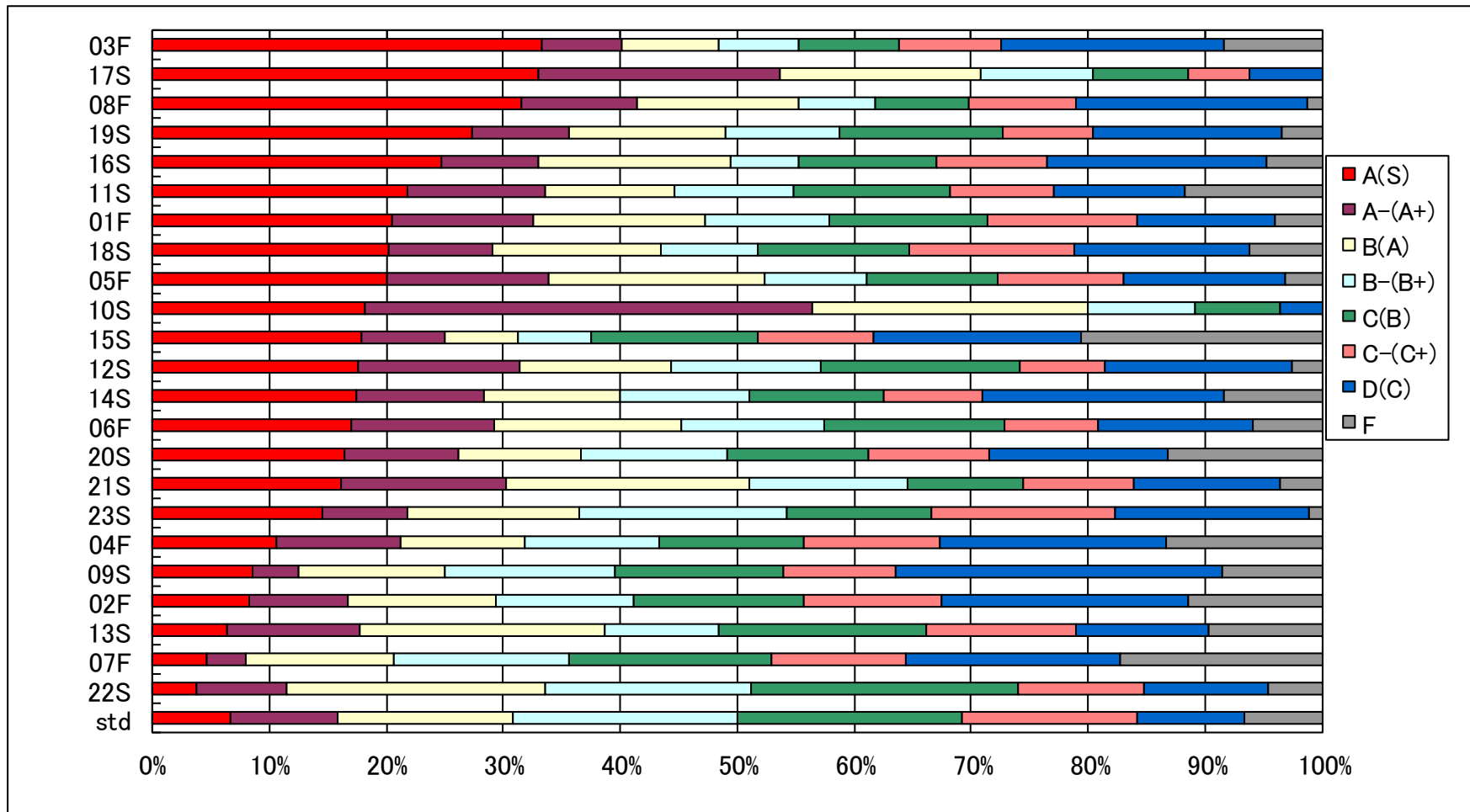
科目区分による違い

評価者による違い

SETによる影響

科目による評価分布の違い

BME 専門基礎・課程専門科目の例



GPが高い(という噂の)講義をとり、本当に必要な講義をとらないという弊害

科目区分による違い

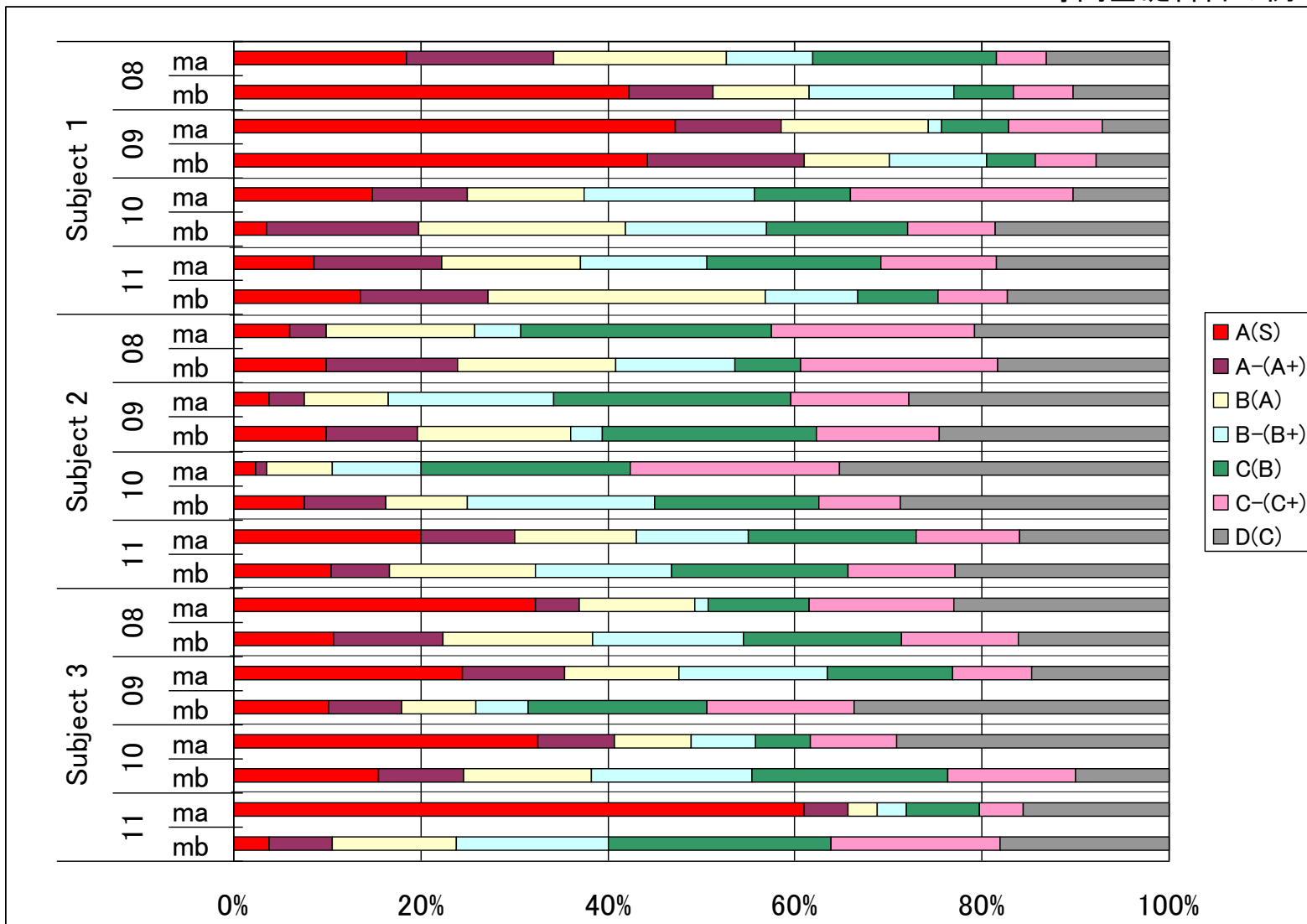
科目分類	GPA	教科	GPA	授業形態	GPA
人間教養科目	2.63				
言語教育科目	2.40				
専門基礎科目	2.41	化学	2.21	講義	2.04
				演習・実験	2.97
		物理	2.33	講義	2.00
				演習・実験	2.55
		数学	2.64		
		環境・生物	1.84		
		情報	3.48		
課程専門科目	2.25	(卒研を除くと 2.20)			

人間教養＞専門基礎＞言語＞課程専門
 実験・演習＞講義
 専門基礎: 情報＞数学＞物理＞化学＞環境・生物

評価者による違い

1科目複数学級：名簿によるクラス分け
 同じシラバス・同じ教科書・異なる教員

BME専門基礎科目の例

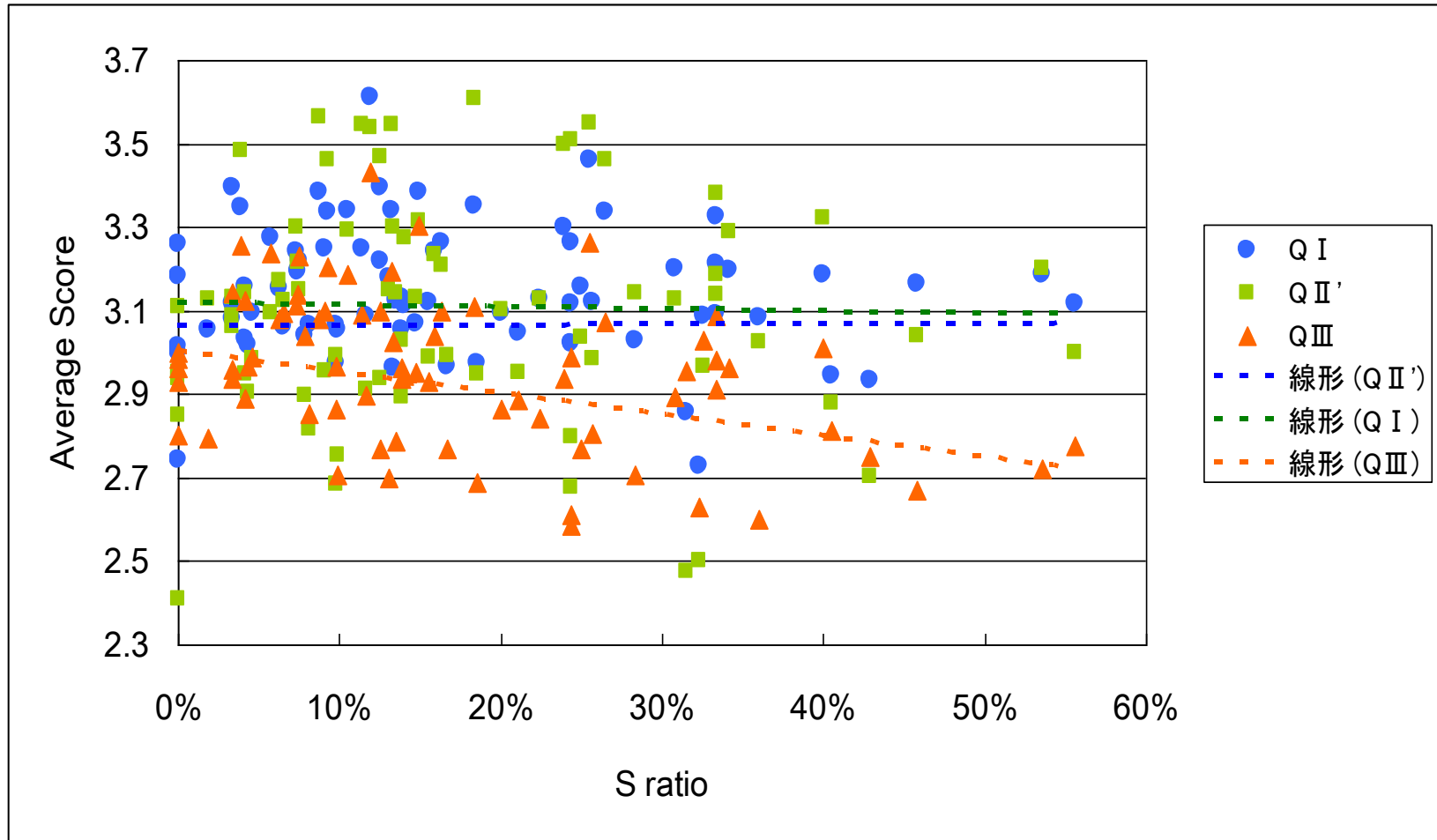


タマタマ名簿片半分の学生群が良かった・悪かっただけでは説明できない差

SETによる影響

学生による授業評価と教育者による達成度評価との関係

BME専門基礎・課程専門科目の例



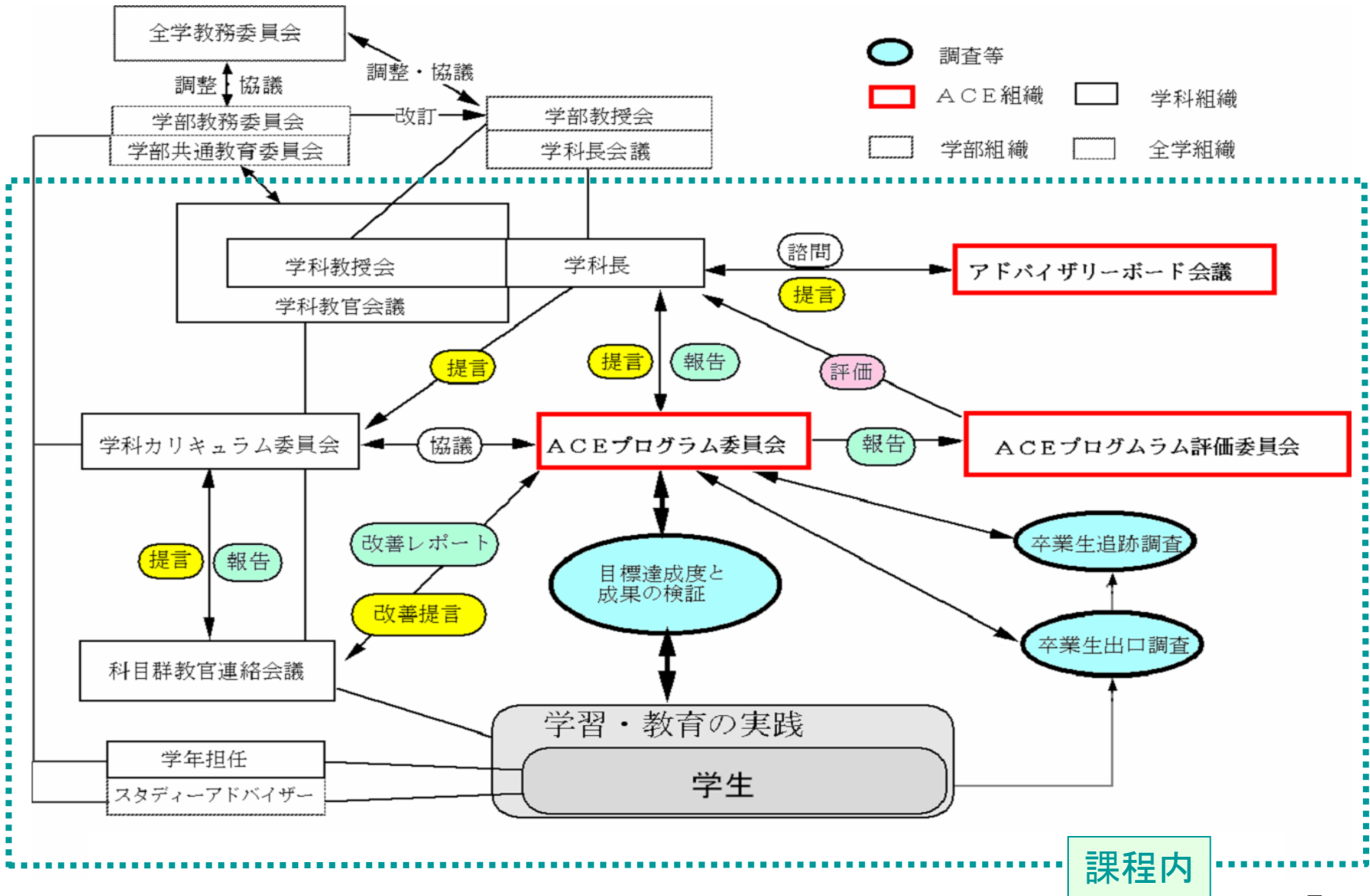
Q I (この授業について)

Q II (教員の教え方について)

Q III (この授業に対するあなた自身のことについて)

2. プログラム成果の検証

JABEE取得時代のプログラム検証システム



現在のプログラム検証システム

大学評価室

教務委員会

学部教授会
部門長等会議

総合教育センターFD部会

部門教授会
部門教員会議

部門長・課程長

報告

改善レポート

報告

評価

外部有識者による
プログラム評価

提言

報告

目標達成度と
成果の検証

授業評価

卒業生追跡調査

卒業生出口調査

科目群教官連絡会議

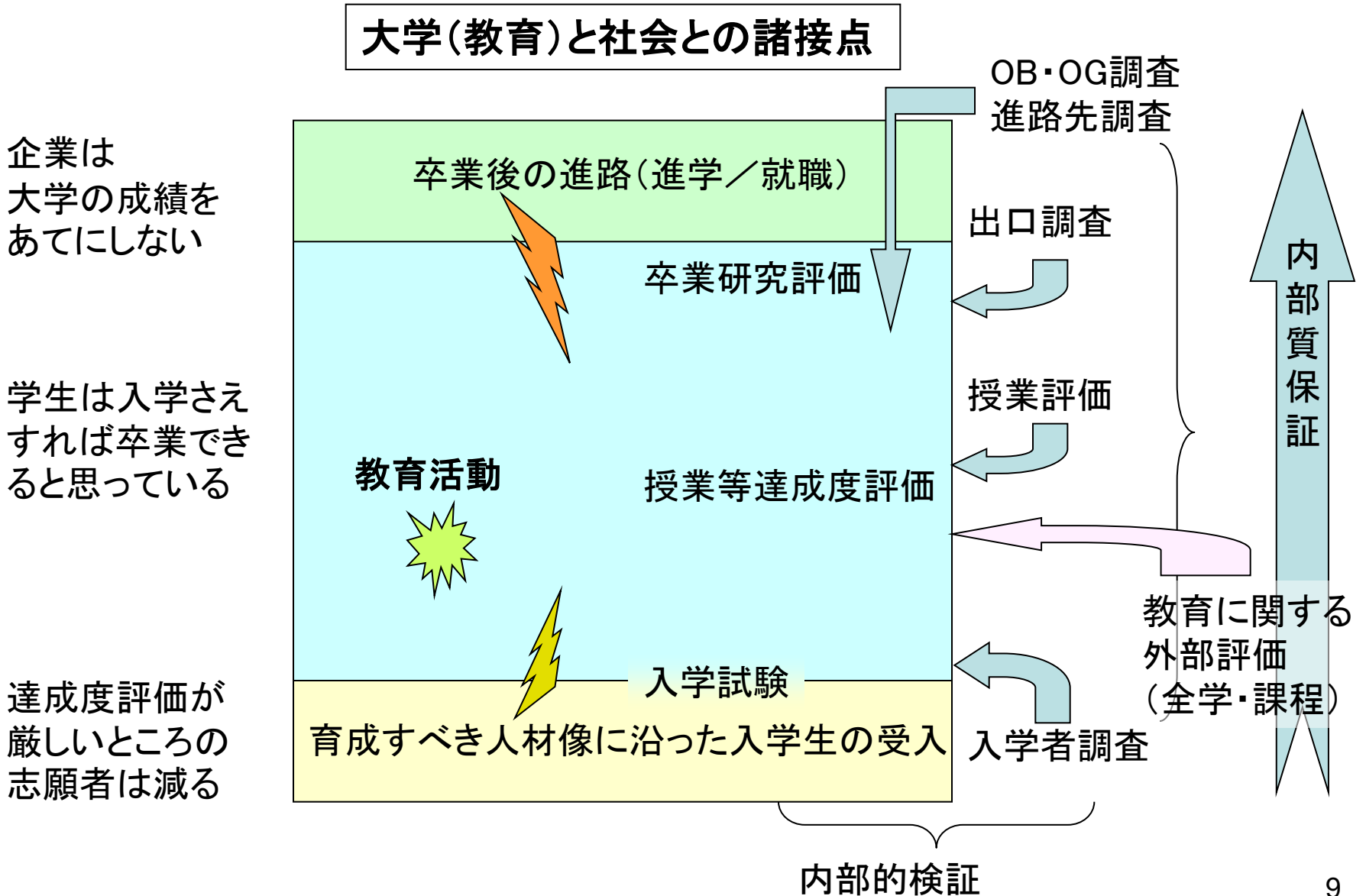
学習・教育の実践

学生

スタディーアドバイザー

課程内

3. 達成度評価の結果と社会





企業は
大学の成績を
あてにしない

- ・企業が独自に評価しようとする。
－就職活動が長期間する。授業期間にもかかわらず集める。
- ・企業の採用法の多くはpresentationに対する多数決評価。
－大学の成績よりもさらに当てにならない(?!)
- ・卒業できるかどうかわからない段階で「決める」(!)



達成度評価が
厳しいところの
志願者は減る

- ・JABEEを受審・認証取得したところの競争倍率は下がった例。
- ・本当に「内部質保証」をやれば誰も受けなくなるのではないか、
保証できるような学生は来なくなるのではないかという不安。
- ・「卒業しにくい大学」は好まれない！！



学生は入学さ
えすれば卒業
できると思っ
ている

- ・「入学させたら卒業させる義務がある」と嘯く学生
- ・ややこしいので、最後は適当に単位を出す教員
- ・ほぼ誰にでも「卒業見込証明」を出す教務部局

大学は社会を疑問視し、社会は大学を信用しない！！

(信用されるのは大学のBrandだけ(?))

大学による達成度評価への信頼を得ることがまず第一

4. これまでの達成度評価で**見える部分と見えない部分**

これまでの達成度評価の中心: 技術や技能を裏付けるための知識

しかし、GPAと、卒業研究で見られる力には乖離がある。

GPAは高いのに、新しい発想が出てこない学生

GPAは低くても、研究のセンスが抜群の学生

卒業研究:
双方向の演習、実験
統合科目

数値化・定量化できない「成果・達成度」をどのように把握するか？

主体的学修, 創造的・・・繰り返し唱えられてきた

2012.03 中教審大学分科会大学教育部会<審議まとめ>

2011年～学習指導要領

2008.12 中教審(答申)学士課程教育の構築に向けて

：

1998.10 大学審議会答申

教育:
教える 育てる

ご清聴ありがとうございました